

令和 7 年度 福岡県立大学公開講座Ⅳ報告書
「認知症になっても安心して暮し続けられるまちづくり」

開催日時：2025 年 11 月 15 日（土）13 時 30 分～15 時
会 場：福岡県大学付属研究所 大セミナー室

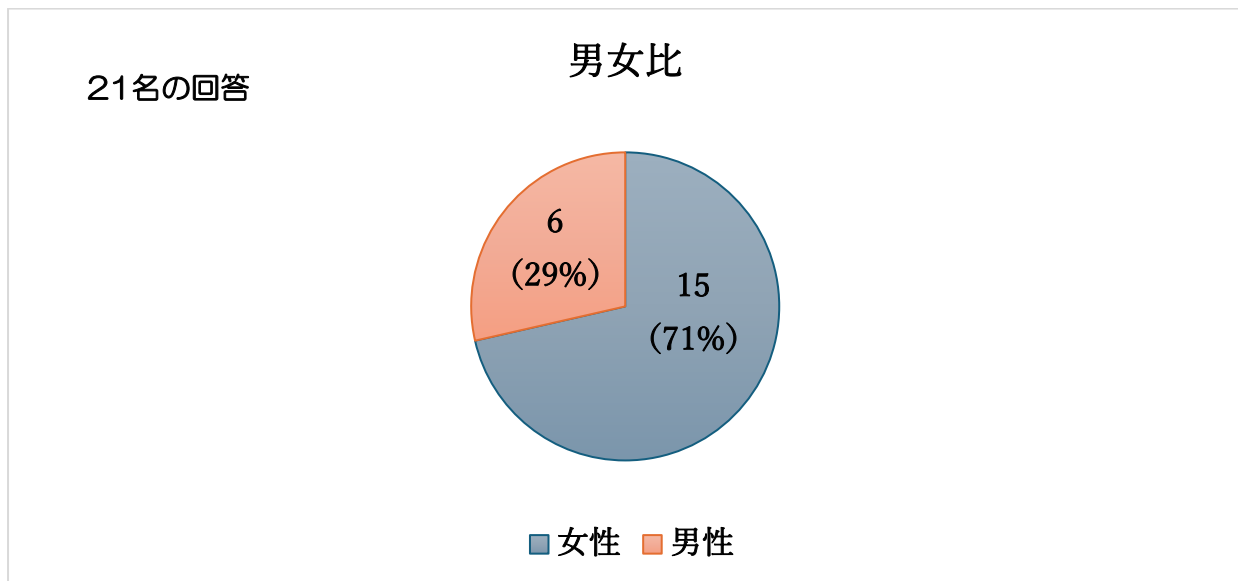
本講座は地域住民の方に認知症を正しく理解して頂き、認知症は誰もがなり得る病気であり他人ごとではなく、自分ごととして考えることが重要です。認知症とともに生きるにはどうしたらよいのか地域住民の方と話し合うことで、安心して認知症の方が自分のまちで暮らし続けることができる第一歩として本講座を企画いたしました。

今回グループワーク(地域の認知対策で困っていること、認知症対策として今から取り組めること)に積極的に参加して頂き、頂いたご意見についても記載しております。今後とも安心して認知症の方が暮らし続けられるまちづくりにご協力頂けたらと思います。よろしくお願いいたします。

参加者総数：29 名（アンケート回答 21 名、回収率 72.4%）

■アンケート集計結果（n=21）

問1 あなたの性別についてお尋ねします。

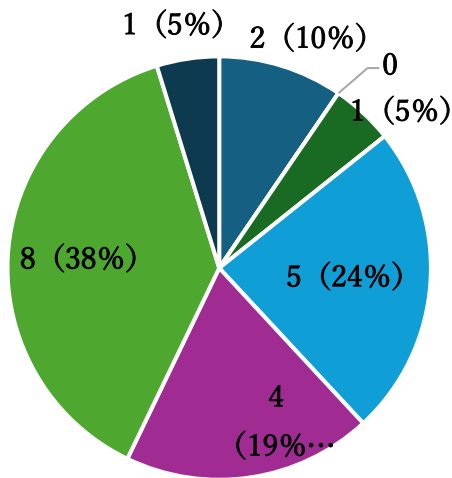


問2 あなたの年代についてお尋ねします。

20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
2	0	1	5	4	8	1

21名の回答

年代別

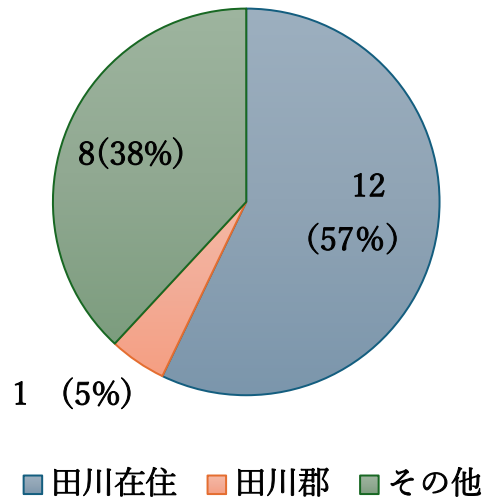


■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80代以上

問3 あなたは、田川市在住ですか

21名の回答

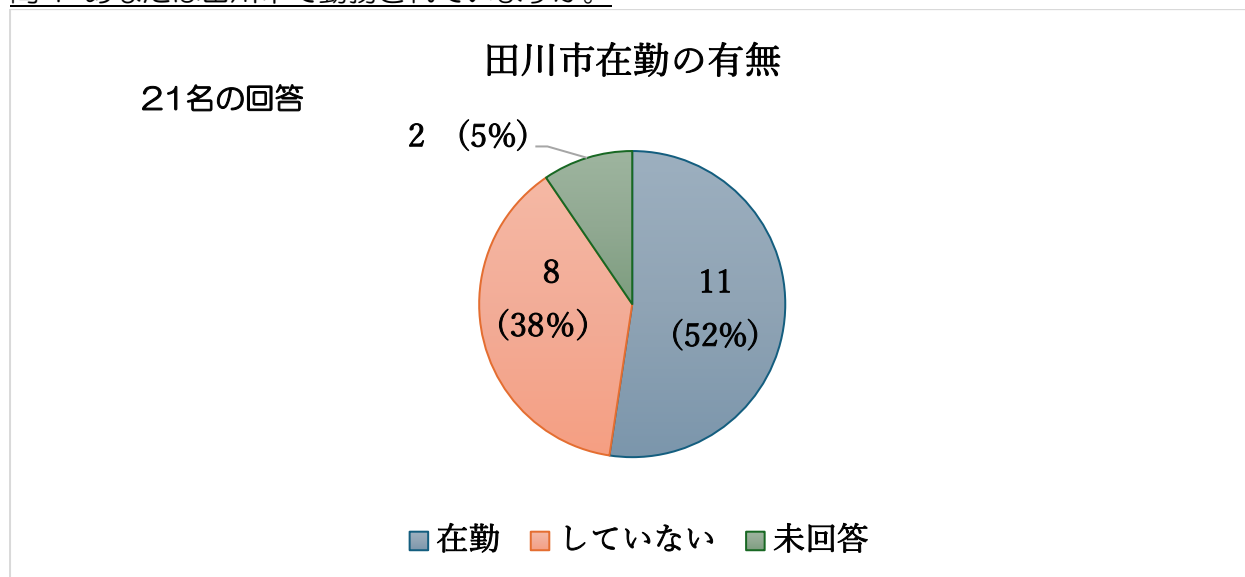
在住地



■ 田川在住 ■ 田川郡 ■ その他

田川市在住者 12 田川郡在住者 1 その他 8 名：直方市 1 名、飯塚市 1 名、小竹町 1 名、中間市 1 名、太宰府市 1 名、中間市 1 名、嘉麻市 2 名

問4 あなたは田川市で勤務されていますか。



田川市在勤者 11 その他未回答 田川市在住でかつ在勤者 7

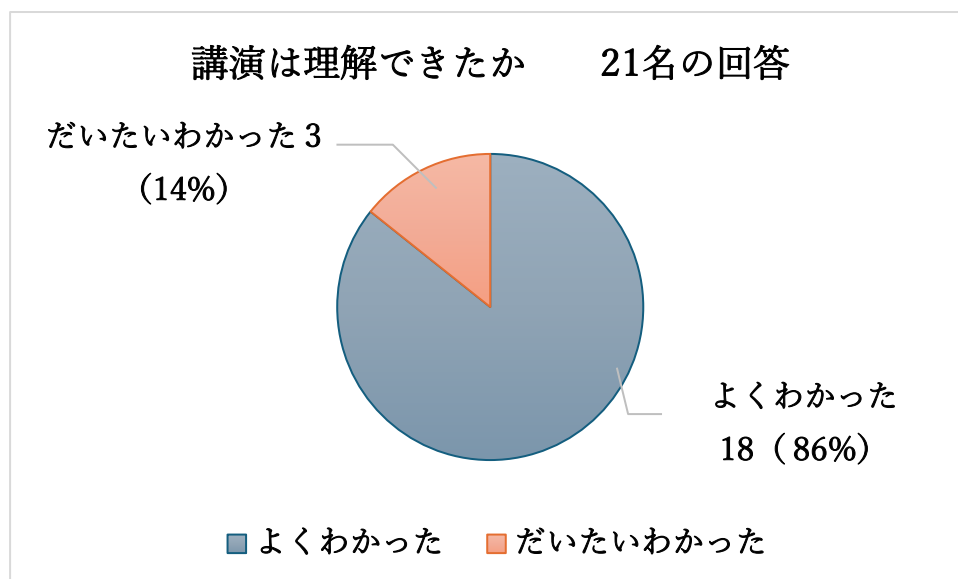
問5 あなたの地域での役割があれば記載してください。

民生委員	老人会役員	組長	公民館審議委員	教員	ボランティア	なし
4	1	1	1	1	1	12

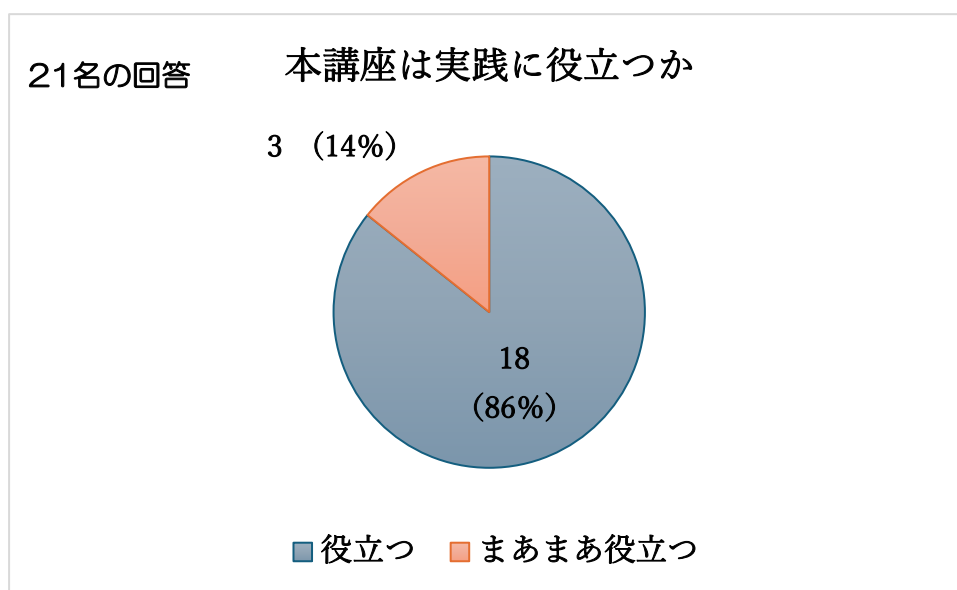
問6 今回の研修をどこで知りましたか

広報田川	チラシ	田川市高齢傷がい課	友人・同僚等に聞いた	講座・研修会	教員に誘われた	ゼミ
3	9	1	5	1	1	1

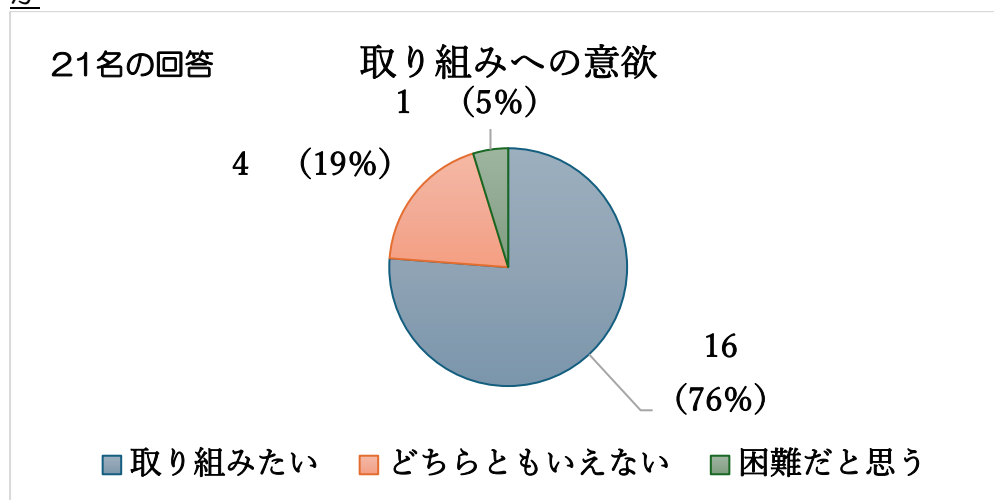
問7 本日の講演について理解できましたか



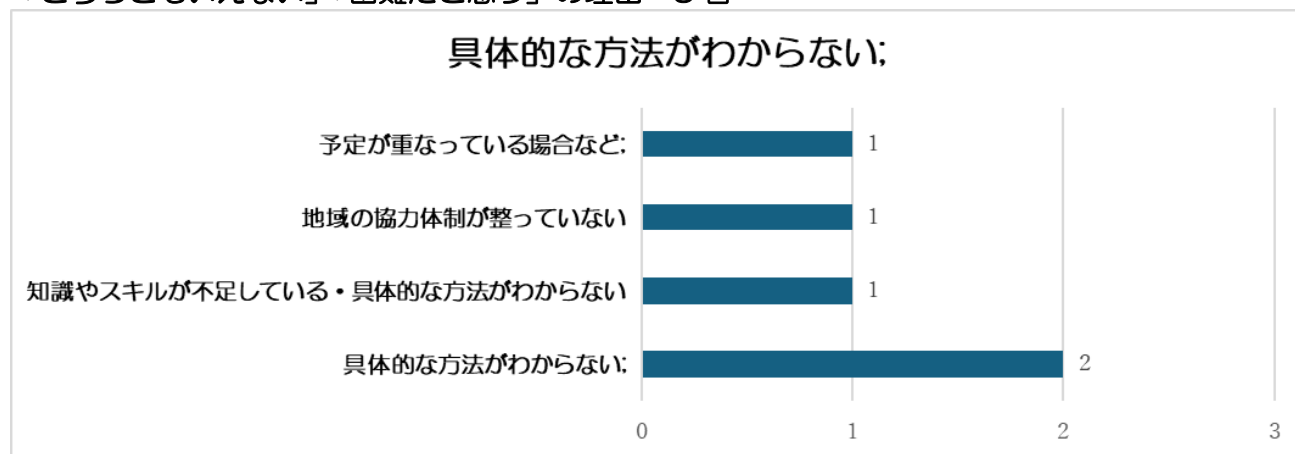
問8 今回の公開講座は、今後あなたの生活や仕事などに役立ちますか



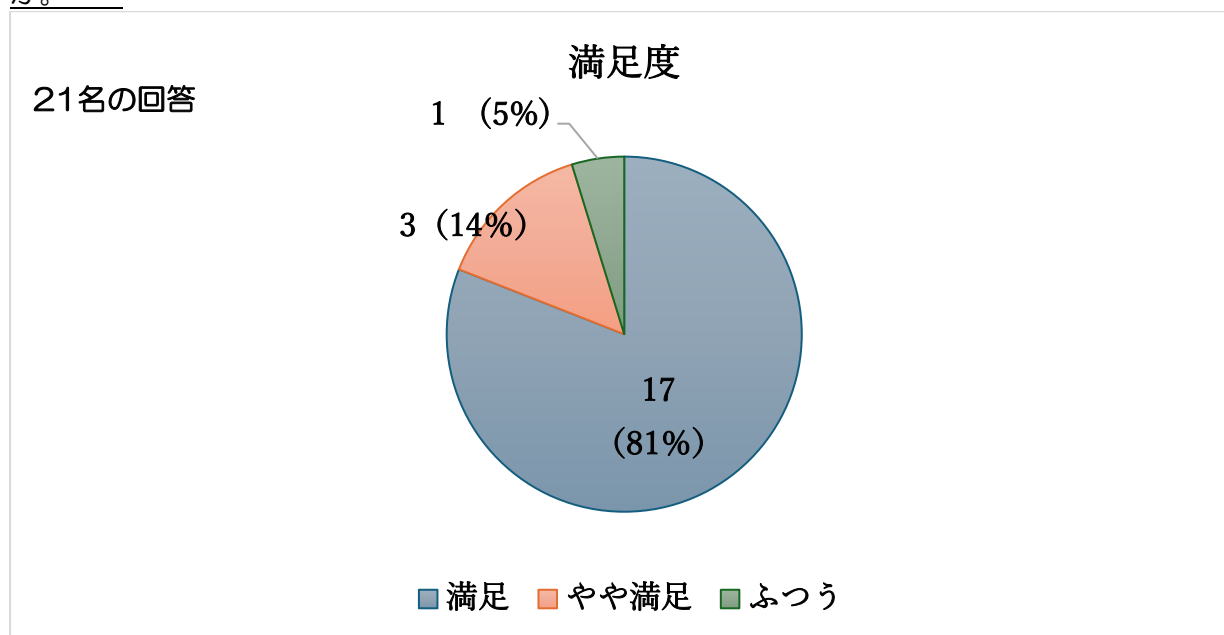
問9 公開講座に参加して今後認知症対策について自分ができることに取り組みたいと思いましたが



「どちらともいえない」「困難だと思う」の理由 5名



問 10 今回の公開講座Ⅳ（認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり）は満足でしたか。



問 11（自由記載）今回の公開講座Ⅳ（認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり）の感想や、認知症対策についての希望などをお願いします。

- ・地域の方の声が聞けて、良かったです。
- ・認知症は恥ずかしい事ではなく誰もがかかり得る病気だと認識する事が大事、また地域では積極的に声かけが大事だと思う。
- ・認知症は誰でもなりうるとお聞きして、どこか人ごとだったと自覚しました。グループワークで様々な方の話を聞いて、現場の人の意見は貴重だと実感しました。地域包括支援センターの方が認知症のご夫婦との関わりで手を尽くされた話を聞いて、とても大変だと思いましたが、認知症のご家族にとっては最後の砦のようにありがたいのではないかと感じました。田川市の中で気軽に話せるコミュニティ作りについて何かできることがないかと真剣に考え続けます。また、手が届いていない独居の方などのために、私自身も『民生委員になってください』と言われているので、地域のためになるなら受けるかどうか真剣に考えたいと思いました。本日はありがとうございました。
- ・医療関係者だけでなく、民生委員の方や一般の方もいて、色々な観点での意見が聞けて良かった。
- ・色々な立場の現場の声を聞く事が出来てとても良かった。 こういう事場が 定期的開催されると良いと思います いい機会に会えて感謝致します
- ・どんな状態になっても、安心して暮らし続けられる様に沢山の方々のお知恵をお借りしながら地域との関わりをどの様にしていけるかを考えて行ければと思います。
- ・地域が高齢化し支援できる方が少なくなっているため、高齢者自身が認知症の理解や対応の仕方の勉強会を公民館とかの地域で話しやすい環境とするのがよいかなと思いました。
- ・包括センターに相談に行ったり SOS ネットワークに登録するタイミングがわからない
- ・いろいろ話が聞けて良かったです。
- ・認知症でない人も（認知症に限定せず）気軽にいけるカフェがあればいいと思います。あるのかもしれませんが、私の地域にはありませんので
- ・住民さんの生の声をきけて、家族側のニーズを知ることができ、勉強になりました。
- ・支援する側の立場からの視点、支援を受ける側からの視点の両方からの意見を聞くことができた。
- ・やはり、どこかで家族以外からの支援は必要になると思うし、支援を行なっていくべきだと思う

が、よく知らない支援を受け入れるにはハードルが高いこともわかるので、元気なうちから支援制度のことを知っておくことであったり、地域住民との関わりを持つ機会を作ったりと早め早めからの対策をしておくことが大切になるだろうと思った。

- ・短時間のグループワークで中身のある話ができとても良かったです。当事者と家族、心配な方、支援者が一緒の立場で集まったことも良かったと思います。
- ・認知症について本人やその家族だけで抱え込んでいる人はたくさんいると思うので、私自身も他人事だと捉えずに認知症について学んで、看護職として働いた時に患者さんやその家族に対して、社会から孤立しないようにするための支援が行えるようにしていきたい。

～公開講座Ⅳ：認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり～

【グループワーク内容】

Ⅰ. 地域の認知症対策について困っていること

【1G】

- ・若い人は立ってくれない
- ・お年寄り（一人暮らし）の方の家へ訪問
- ・高齢者の一人暮らし、夫婦が多い
- ・病院から退院する見込みのない人も
- ・高齢者ばかり。75 歳以上。一人暮らし。
- ・近所も高齢者ばかりで、子どもはなかなか見かけない。
- ・車に乗らないと遠くて行けない状況で、買い物にも苦勞。
- ・市役所からどのような対策支援があるのか分からない
- ・お店は電話をしたら食品を持ってきてくれる
- ・買い物、病院へ行くのに苦勞（交通手段としてタクシーしかない）
- ・本人の自覚がないため、病院へ行ってくれない
- ・SOS ネットワークをもっと普及する必要がある（本人は目的をもって外出するが帰ってこれない）
- ・自分たちの問題にならないと知らうと思えない。もっと広報で広めてほしい。
- ・乗合タクシーやバス
- ・ボランティアが安い料金で迎えに行く
- ・スマホでの予約が難しい（電話の方が良い。家族がいればしやすい）
- ・家族が近くに住んでいない

【2G】

- ・団地住民の顔と名前が一致しない
- ・老人会などに声をかけても入りたがらない（支援を受けてくれない）。
- ・地域包括支援センターなど町のお助け情報の浸透ができていない。
（本人や周囲の人からの情報がないと助けられない）
- ・認知症の方の家族が興味を持ってくれないと対処できない。
（本人の意思はどこまで尊重していいのか）

- ・ 個人で出来ることは何があるのだろうか。
- ・ 独居の方はどうするのか(家族が遠方にいるなど)。
- ・ 亡くなる時はどうするかという話し合い
(高齢者が増加している。鍵をポストに入れておいて、訪問診療の際、その鍵を使う)

【3G】

- ・ 親子で引きこもりの認知症疑いの知人をどうしたらよいのか分からない(誰に相談すればよいのか)。
- ・ 声のかけ方
(家族でない人に対してどう声を掛けたらよいかわからない。家族に対しては、つい強く言ってしまう。)
- ・ 急にセンターの人が訪問しても受け入れてもらえるかわからない。

【4G】

- ・ 認知症カフェに行ったけどあわなかった。(困っていることを話したくて行った)
- ・ 地域包括支援センターに入りにくかった。(介護者の支援はないのかと思って行った)
- ・ 必要な人にサービスが行き届いているのだろうか。
- ・ 施設によってサービスの質が違う。(ちゃんとケアがされていない(社員教育))
- ・ 現場と理想のギャップがある。(担当者が行っても不在。限られた人しか利用できない など)
- ・ ニーズが合わない。配食サービスもお金を払うほどではない。

【5G】

- ・ 12 年前に妻が認知症になったとき、知識もなく、自分も働いていたため、通院していた病院に家族会を紹介してもらい知識を得た。知識がある中での認知症観が分からない。知識がないことで、仕事を辞めてしまった。
- ・ 母が 80 代で認知症になった。進行していき、世話ができなくなったので入院した。相手の話を聞くことや、初期症状に気づくことが難しかった。「認知症」という言葉を知らず、病気という概念で接していた。
- ・ 一方通行の支援から共生社会へと変化している。当事者の視点からみた支援が必要。

2. 認知症対策として今から取り組めること

【1G】

- ・ 認知症カフェなどの利用状況などを知れるとよい。
- ・ 行方不明者で放送がある人は登録をしているのだろうか。(放送がない場合もある)
- ・ 民生委員
個人情報への配慮に苦勞している。
個人情報が妨げになり、家を訪問できないこともある。

【2G】

- ・ エンディングノート
- ・ 周りの人と集まって、パソコンなどを扱う。それをさらに周りの人に広め、高め合う。

- ・ 早めからの支援の情報を広める。
- ・ 社会参加が苦手な人をどう社会交流などへ取り組むか考えていく。
(その人の近くで興味のあることを開催。歌をうたう会や食事に行くなど)

【3G】

- ・ 困っていることがないか、本人や家族に聞く
- ・ 民生委員に相談する
- ・ 身近な地域の人が訪問する
- ・ まずは病院につなぐ
- ・ 今までと服装が違うなど、変化に気づく

【4G】

- ・ 話し合いができなかった

【5G】

- ・ 地域の見守り、当事者が自由に外出できるように認知症の講演会などの知識を広める場。
- ・ 認知症だと言いやすい環境づくり(言っても伝わらない環境)